

平成27年度条件不利地域における日常生活機能確保のための実証事業報告書(概要)

「よろずや」の複合機能化

平成27年度においては、これまでの調査研究で得た成果を踏まえ、特に、「よろずや」の機能の中で「交流機能」について調査。「よろずや」が、地域住民が地域で暮らしていける生活サービスの維持・確保するための拠点として、持続的な運営や機能の複合化による充実を実現するための手法について、先進事例を踏まえ検討。

「よろずや」の基本形 (日常的な買い物機能)



地域住民が支える仕組み
(出資・運営・利用)

「よろずや」の機能

- 物販(スーパー等)
- 交流(サロン、カフェ・レストラン)
- 金融(預貯金引き出し等)
- 医療・福祉(健康講習、健康診断等)
- GS(ガソリンスタンド)
- 行政(住民票発行、指定管理等)
- 取次(郵便や宅配の受付窓口)
- 中継(配送品預かり、ネット注文代行)

交流機能について調査研究

- 待ち合い(バス停等での交流)
- サロン(休憩場所やイトイン等)
- 持ち寄り(産直市等)
- 生産(惣菜製造、特産品開発等)
- 飲食(地域食堂、地元レストラン)
- 宿泊・体験(体験イベント開催等)

調査研究の成果

- ・「よろずや」の継続や複合機能化の課題と対応策
- ・先進事例の整理
- ・カフェ・レストラン開業の手引き等

活動事例

○鹿児島県大和村(大和商店)

人口減少と高齢化が進む集落において、地域住民の出資により、物販・サロン・農産物の出荷や販売、高齢者の見守り活動等を行っている。各商品の販売状況を分析することによる商品の計画的な仕入れの実施、人件費の削減、利用率を高めるための特売セールの実施、惣菜販売などの様々な経営工夫を行っており、独立採算・黒字経営を実現。



○島根県美郷町(道の駅グリーンロード大和)

従来より存在した道の駅が地域の拠点としての発展性が見られない状況に鑑み、地区の4自治会が中心となった協議会が指定管理を開始。物販、地元農作物の産直市、カフェ・レストラン機能を備え、多角的経営を実現。また、地域おこし協力隊も受け入れ、商品開発や広報なども積極的に行っている。

